

保育計画成果報告書

法人名等	福島県東白川郡鮫川村教育委員会
施設名	幼保連携型認定こども園 鮫川村立さめがわこどもセンター
報告者(役職)	生田目京子(園長)
住所・連絡先	福島県東白川郡鮫川村大字赤坂西野字酒垂3-3
	電話 0247-29-1010
	E-mail codomo.c@vill.samegawa.fukushima.jp

○タイトル(保育計画)

鑑賞・歌唱・楽器あそび・リズム遊びなどを通して、わかる力(文化・創造)を育てる。

○主な助成備品

楽器(ピアノカ、木琴、鉄琴、小太鼓、トライアングル、タマゴマラカス)
放送機器(ワイヤレスアンプ、マイク、CDラジカセ、
クラシック及びピアノ・オルゴールCD)

1. 保育計画策定の目的

本園は、平成15年3月に廃校となった西野小学校校舎を改修し、公立の幼保一体化施設として平成17年4月より運営を続けてきました。平成29年度から学習力向上と子育て支援をより一層充実させ、担当部局を教育委員会に一本化するために「認定こども園移行検討委員会」を設置し、当初の計画通りに平成30年4月から、幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切りました。

しかしながら、本村は自主財源に乏しく、また、施設の老朽化もあり、多くの予算を維持管理経費に充てざるを得ないのが実情です。音楽教材なども充実させたいと思いつつも、なかなかゆとりがなく、幼保一体化施設になる前の各保育所や幼稚園から持ち寄ったものや、旧西野小学校が閉校になったとき近隣4校が一緒に閉校になったので、各小学校から園児たちが使えそうなものを集めて使用してきました。そんなとき、この助成制度を知り、楽器だけでなく、CDなどでピアノやオルゴール、オーケストラなどによるクラシックなどに耳を傾けることは情操教育につながるのではないかと考えました。また、毎年12月に体育館(旧小学校なので)で行われている3歳児からのお遊戯会のときに、子どもたちの声の助けになるよう使用している放送機器も旧保育所、幼稚園からの持ち寄りだったので、感度のいいものにするだけで、子どもたちの声を通り、やる気につながるのではないかと考えました。

いい音を聞き、自らもいい音、いい声を出し、わかる力(文化・創造)を育てていきたいと思えます。

2. 具体的な実施内容

～普段の生活の中で～

先に述べましたように、さめがわこどもセンターは旧小学校を改築した園舎のため、小学校のときの体育館がそのまま残っています。年長児はお昼寝をしないので、その時間に体育館でリズム運動をしたり、鬼ごっこをしたりなど身体を動かして遊んでいます。その大きな体育館で0歳児から5歳児まで全園児で行事を行うこともあります。毎月の誕生会もそのひとつです。その月に生まれた誕生児たちは、



全園児の前に座りその月の担当保育者からインタビューを受けます。名前や年齢、大きくなったら何になりたいか、好きな食べ物は何かなどを聞かれ、



恥ずかしさ、緊張感はあるものの嬉しそうに答え、全園児におめでとうの拍手をもらいます。その後、その月によ

って保育者が劇を見せたり、みんなでダンスをしたりして楽しめます。年齢の低い子でもみんなの前に立ち、お祝いしてもらったり自分なりにインタビューに答えたりという経験は、自信や自己肯定感の芽生えにもつながっていくものと考えます。

また、普段の生活の中でわらべうたを多く活動に取り入れ、保育者が自分の声で子どもたちに歌って伝えることを大切にしています。お昼寝のときもなかなか寝付けない子のそばで、子守歌を歌いながらお腹や背中をやさしくなでてあげ、安心感が持てるようにしています。それでも、様々な音、音楽に触れさせたいという思いもあり、年度後半、子どもたちの入眠がスムーズになったころ、オルゴール曲をCDデッキで流すと、子どもたちの表情が変わりました。保育者としては、日常との違いに目が冴えてしまうのではないかと心配しましたが、子どもたちは目を閉じて聞き入り、いつの間にか眠りに入っていました。静かな曲を静かに聞き、いろいろな音に慣れ親しむことができます。

～お遊戯会～

0歳児から2歳児までは、10月に実施する保育参観デー（3日間実施）の中で、ごっこ遊びとして各クラスで劇を保護者に見ていただき、3歳児から5歳児までは12月の第1土曜日に体育館で劇や合奏などを発表します。ちょっとした楽器あそびとしては、3歳児、4歳児も発表の中で楽器を使ったりしますが、毎年合奏として発表するのは5歳児です。一人ひとりの保育年数も長いということもあり、年長児になるとお遊戯会に対する意気込みが違ってきます。

新しい楽器が届いたころから「これ使って合奏する？」「かえるのうただったら弾けるよ」「大太鼓、かっこいいね」などとやる気満々でした。普段の遊びの中でも楽器に触れる機会を多く持つことで、楽器が身近なものにな



りました。どういう音がきれいなのか、どうすればきれいな音が出せるか、楽器の音を合わせてきれいな音にするにはどうすればいいのかななどを、自分たちなりに考え、音を出すようになっていきました。

お遊戯会での発表曲を『にじ』に決めて練習を開始したころは、なぜかリズム楽器ばかりに子どもたちが集中していました。でも、それでは合奏にならないということを感じ始め、それぞれが演奏する楽器を変更し、当日を迎えました。予行練習のときもそうだったのですが、演奏を始める前の子どもたちは、緊張で表情も強張っていましたが、演奏が終わったときはどの子どもも満足感溢れるニコニコ笑顔を見せてくれていました。そ



の笑顔につられるように、会場で聞いていたお家の方々も笑顔で大きな拍手を送っていただきました。

その体育館でお遊戯会をするので、合奏や歌唱は大丈夫なのですが、劇のときの声がなかなか通りません。そこでマイクを使用し始めたのですが、ある程度感度がよくないと子どもたちの声を拾ってくれません。昔話などは見ているお家の方々も内容を理解しているので大丈夫なのですが、今の絵本を劇にしたものは台詞が聞こえないとストーリーが伝わらず、見ている人たちにとって劇がつまらないものになってしまいます。今回、台詞がしっかりお家の人たちのところに届き、どのクラスの劇も大きな拍手をいただきました。

そのことは、子どもたちの自信となり、お遊戯会が終わってからも友だちを誘い合いながら、楽器あそびをしたり劇ごっこをしたりして楽しんでいました。



3. その成果と評価

さめがわこどもセンターでは、幼保一体化施設のときから0～就学前の乳幼児期を、同一理念でおこなう一貫性のある保育カリキュラムを園独自で作成し、3～5年を目安に改訂をしています。その中の《わかる力 音楽》の鑑賞の部分で、年齢が上がるごとにクラシック音楽などにも親しませていきたいと考えて立案しているものの、なかなか実施できていませんでした。そんなとき、CDでもクラシック曲に触れることができ、カリキュラムがより実践的なものになりました。もちろん、CDから流れる演奏よりは生の演奏の方がよいのはわかっていますが、過疎化の進んだ山間地では、生の演奏を聴きに行くまでが大変です。

また、山間地でも様々なメディア機器は入ってきていますが、家庭でそれらを利用してクラシック曲などに触れる時間があるかは定かではありません。だからこそ、CDであっても耳にすることができることは、大変うれしいことです。

大きな行事では、マイクを通してでもみんなの前で自分の意見を言ったり、インタビューに答えたりする経験は、今後自信となって行動に表れてくると考えています。また、お遊戯会で年長児の合奏を聞くことで、大きくなることへのあこがれも育っています。

4. 今後の課題と展望

本園の保育カリキュラムの中でも、0歳児から楽器あそびや音楽鑑賞がありますが、年齢が小さいほど日々の生活が中心で、なかなか楽器遊びや音楽鑑賞の充実が図れていません。また、年長児などもお遊戯会后、満足感からかそういった楽器遊びから遠ざかってしまうことも残念に思っています。

いい音色の楽器、放送機器、各種CDなど、大いにそして大切に利用しながら0歳児からの《わかる力 音楽》をより充実させていきたいと考えています。

以上